

当院のストレス対策に関する調査

(医) 衆和会 長崎腎病院

○米田千恵子, 岩永敦子, 熊 博和, 丸山祐子, 原田孝司, 船越 哲

【背景】

2008年当院でのストレス対策調査の結果、「休養」が有効だった。

【目的】

休養・教育など継続しているストレス対策に関する意識調査を行い評価する。

【対象・方法】

全職員 173 名を対象にアンケート調査を行い、有効回答の得られた 153 名を対象とした。バーンアウト状況を BM 測定法で健全群・警戒群・バーンアウト群に分類し、ストレス対策に関し解析する。

【結果】

「休暇が必要だ」と全体の 98.6%が感じているが、バーンアウト群の 77.8%が休暇中にも仕事のことを考えていた。教育では、「必要だと思う」が全体の 83.6%だった。

「レベルアップの経験がある」では、バーンアウト群 58.3%と他群の 40.0%台に比べ多かったが、「レベルアップをストレスに感じる」が他群の 20.0%台に対し 33.3%と高かった。サポート体制では、「自分の存在価値が認められていると思う」が全体の 28.8%と低かった。

【考察】

ストレス対策として、人間関係のサポート体制の改善が必要である。また、ストレス要因として「ひたむきで自己関与が高い」という個人の性格・価値観が関与していると考えられた。